

各関係機関の長 殿

鹿児島県病虫害防除所長

令和元年度病虫害発生予察情報について

このことについて、発生予報第4号（7月）を発表したので送付します。

鹿児島県病虫害防除所

〒899-3401

南さつま市金峰町大野 2200

TEL 099-245-1081（代表）

099-245-1157（直通）

099-245-1149（FAX）

テレホンサービス

鹿児島 099-296-6430

296-6431

ホームページアドレス：<http://www.jppn.ne.jp/kagoshima>

メールアドレス：nousou-boujo@pref.kagoshima.lg.jp

農薬の安全使用に努めましょう

農薬安全使用五つの柱

1. 使用する人の安全 使用者自身の健康管理，安全使用
2. 作物に対する安全 適期，適正防除で薬害防止
3. 農産物に対する安全 消費者へ安全な農産物を供給
(農薬安全使用基準の遵守)
4. 環境に対する安全 周辺環境への影響防止
(周辺住民等への危被害防止)
(河川，湖沼，海などへの汚染防止)
(養蚕，養蜂などへの危被害防止)
5. 保管管理の安全 保管管理の徹底で事故防止

農薬ラベルを確認しましょう。
農薬の飛散（ドリフト）にも注意しましょう。

令和元年度病虫害発生予報 第4号

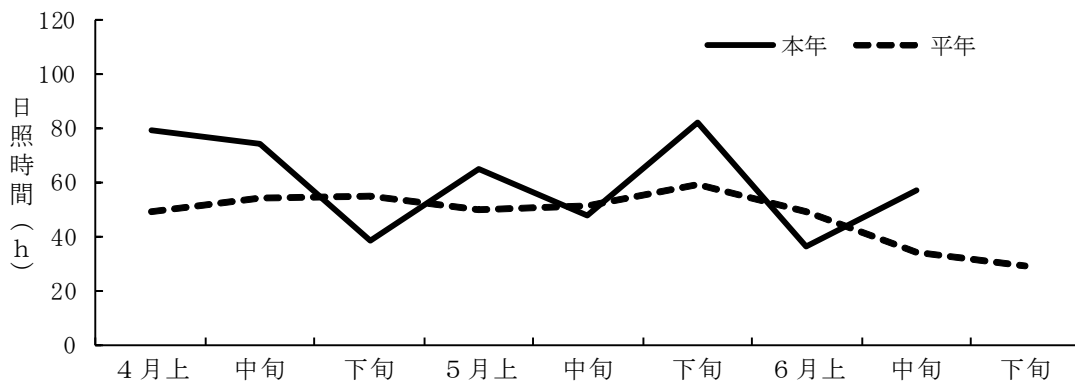
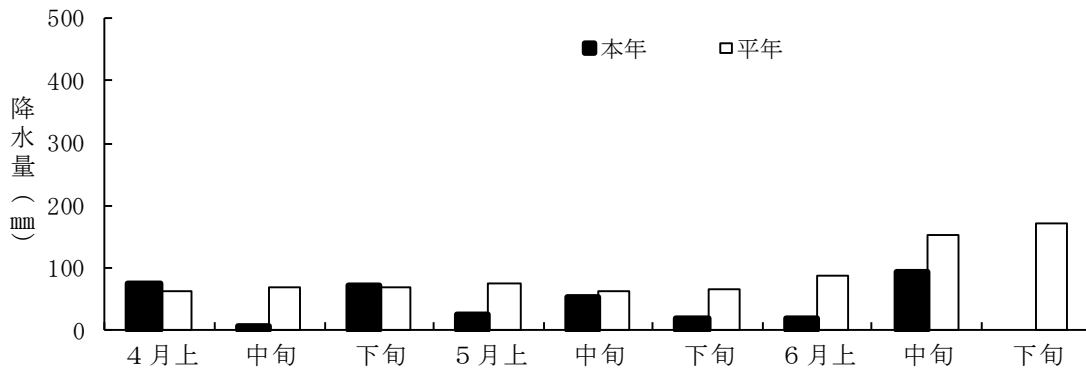
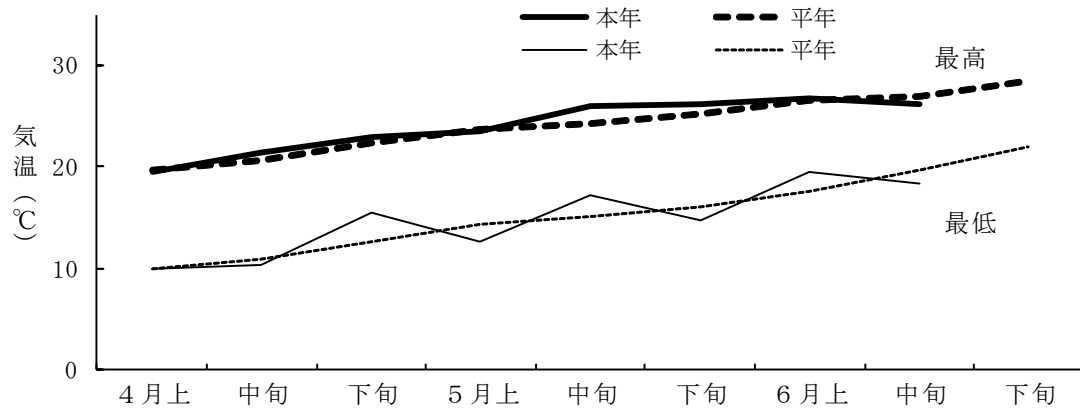
令和元年6月28日
鹿児島県病虫害防除所

【気象概況】

I. 向こう1か月の予報（6月29日から7月28日） 令和元年6月27日 鹿児島地方气象台 発表

| 要素 | 地域 | 確率（％） | | | 概要 |
|------|------|---------|-----|--------|---|
| | | 低い(少ない) | 平年並 | 高い(多い) | |
| 気温 | 九州南部 | 30 | 40 | 30 | 九州南部の気温は平年並みで、降水量は平年並みか多く、日照時間は平年並みか少ない見込み。 奄美地方の気温は平年並みか高く、降水量・日照時間は平年並みの見込み。 |
| | 奄美地方 | 20 | 40 | 40 | |
| 降水量 | 九州南部 | 20 | 40 | 40 | |
| | 奄美地方 | 30 | 40 | 30 | |
| 日照時間 | 九州南部 | 40 | 40 | 20 | |
| | 奄美地方 | 30 | 40 | 30 | |

II. 4～6月の気象情報（鹿児島地方气象台 観測点：加世田）



【病害虫発生予報の概要】

| 作物 | | 病害虫名 | 発生量 | |
|---------------|---------|-----------------------------------|----------|----------|
| | | | 現況 | 予報 |
| 普通作物 | 早期水稲 | いもち病（穂いもち） | やや少 | 並 |
| | | 紋枯病 | やや少 | 並 |
| | | 斑点米カメムシ類 | 少 | やや少 |
| | 普通期水稲 | いもち病（葉いもち） | やや少 | 並 |
| 野菜 | イチゴ（苗床） | うどんこ病 | やや少 | 並 |
| | | 炭疽病 | やや少 | 並 |
| | | ハダニ類 | やや少 | やや少 |
| | サトイモ | 疫病 | やや少 | 並 |
| サツマイモ、野菜・花き共通 | | ハスモンヨトウ | やや多 | やや多 |
| 花き | キク（施設） | ハダニ類（県本土） | やや多 | やや多 |
| | | アザミウマ類（県本土） | やや多 | やや多 |
| 果樹 | カンキツ | かいよう病（果実）（県本土・熊毛地域） | やや少 | 並 |
| | | 〃（奄美地域） | 並 | 並 |
| | | ミカンハダニ（県本土・熊毛地域） | 並 | 並 |
| | | 〃（奄美地域） | 並 | 並 |
| | ナシ | ハダニ類 | やや多 | やや多 |
| | ナシ・カンキツ | 果樹カメムシ類 ツヤアオカメムシ チャバネアオカメムシ | やや少 少 | やや少 少 |
| 茶樹 | チャ | 炭疽病 | 少 | やや少 |
| | | 輪斑病 | やや少 | やや少 |
| | | チャノコカクモンハマキ | 並 | 並 |
| | | チャハマキ | やや少 | 並 |
| | | チャノホソガ | 並 | 並 |
| | | チャノミドリヒメヨコバイ | 多 | やや多 |
| | | チャノキイロアザミウマ | 少 | 少 |
| | | クワシロカイガラムシ | やや少 | 並 |

【 病 害 虫 発 生 予 報 】

I. 普通作物

1. 早期水稲

(1) いもち病 (穂いもち)

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県内全域

(イ) 発生量 並

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：やや少

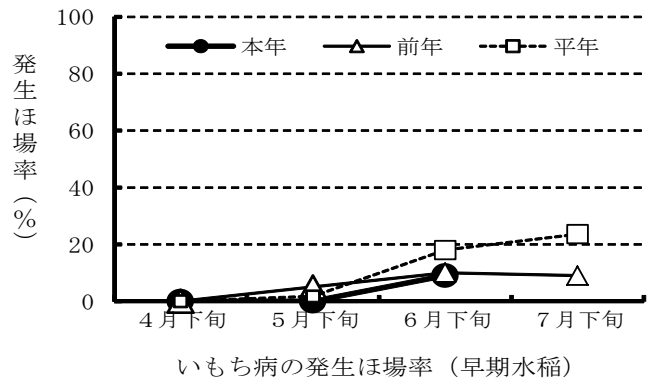
葉いもちの発生ほ場率9% (平年18%)

：やや低い (-)

BLASTAMで感染好適日が認められた (+)

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 葉いもちの発生が認められたほ場では、穂ばらみ期の防除に加えて穂揃期にも防除を行う。



(2) 紋枯病

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県内全域

(イ) 発生量 並

イ 予報の根拠

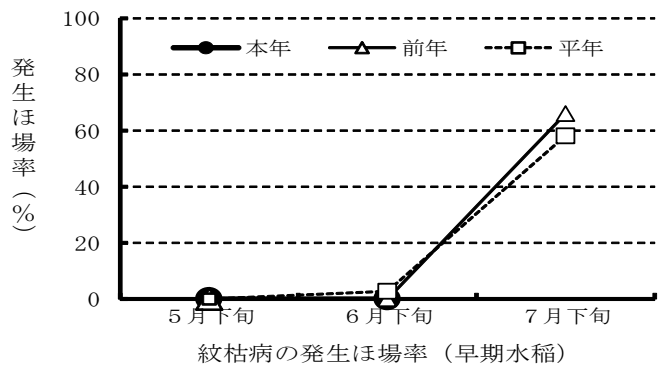
(ア) 調査結果 発生量：やや少

発生ほ場率0% (平年3%)

：やや低い (-)

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 発生が認められるほ場において、出穂後も病勢が進展する場合は、液剤または粉剤で防除を行う。



(3) 斑点米カメムシ類

(クモヘリカメムシ, ホソハリカメムシ, ミナミアオカメムシ, アカスジカスミカメ 等)

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土

(イ) 発生時期 出穂期以降

(ウ) 発生量 やや少

イ 予報の根拠

早期水稲ほ場周辺の主にイタリアンライグラスが畦畔雑草化したイネ科雑草地等における斑点米カメムシ類の生息状況について、捕虫網によるすくい取り調査(捕虫網20回振り)を6月3～5日に行った結果は次のとおりであった。

(ア) 調査結果 発生量：少

(イ) カメムシ類の捕獲箇所率は55.4% (平年(過去5年の平均, 以下同じ) : 85.4%) と平年に比べ低く, 平均捕獲虫数も4.9頭 (平年 : 16.2頭) と平年に比べやや少なかった。

(ウ) カメムシ類の種別構成割合はアカスジカスミカメが最も高く, 次いでクモヘリカメムシ, ホソハリカメムシ, ミナミアオカメムシの順であった。

(エ) 生息虫数が中程度以上であった捕獲箇所の割合は, 県全体で14.3%と低かった。

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 斑点米カメムシ類による斑点米の混入は米の検査等級格下げにつながり、とくに早期水稻では品質低下の主な要因となる。
- (イ) 斑点米カメムシ類の薬剤防除については発生状況に応じた防除が必要であるが、毎年斑点米被害が多い地域では、穂揃期と穂揃期の7～10日後の2回防除が基本となる。特に乳熟後期の幼虫の発生には十分注意し、発生が多い場合は2回防除を行う。

2. 普通期水稻

(1) いもち病 (葉いもち)

ア 予報内容

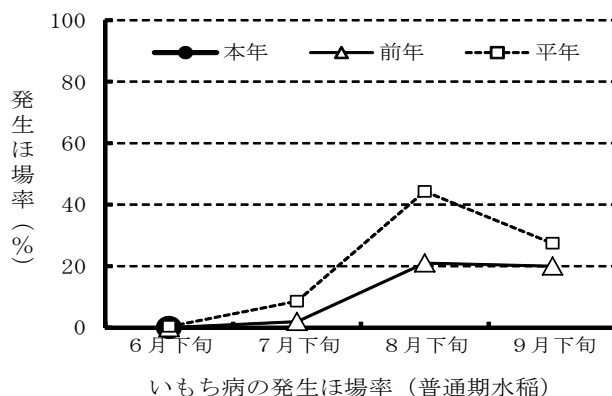
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 発生量 並

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：やや少
発生ほ場率0% (平年0.4%)：やや低い (-)

(イ) 気象予報

降水量：平年並みか多い (+)



ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 補植用の置き苗は発生源になることが多いので、早めに処分する。
- (イ) 常発地域や前年の多発地域では十分に注意し、発生を認めたら初期防除に努める。
- (ウ) 窒素過多は発生を助長するので、各地域の栽培暦に準じた適正な施肥管理に努める。

(2) ウンカ類等の飛来状況

ア 予察灯 (60W白熱電灯) でのウンカ類の誘殺状況 (農業開発総合センター内：(水田))

| 月/日 | 6/1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
|--------|-----|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|----|----|----|
| セジロウカ | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| トビイロウカ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

| 月/日 | 6/16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |
|--------|------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| セジロウカ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | |
| トビイロウカ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | |

イ 大型吸引トラップでのウンカ類の誘殺状況 (農業開発総合センター内)

| 月/日 | 6/1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
|--------|-----|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|----|----|----|
| セジロウカ | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| トビイロウカ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

| 月/日 | 6/16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |
|--------|------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| セジロウカ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | |
| トビイロウカ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | |

ウ フェロモントラップでのコブノメイガの誘殺状況 (農業開発総合センター内：(水田))

| 月/日 | 6/1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
|--------|-----|---|---|---|---|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| コブノメイガ | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 32 | 23 | 19 | 1 | 0 | 14 | 7 | 0 | 0 |

| 月/日 | 6/16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |
|--------|------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| コブノメイガ | 5 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | |

注) -は欠測を表す。

Ⅱ. 野 菜

1. イチゴ（苗床）

(1) うどんこ病

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土

(イ) 発生量 並

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：やや少

発生ほ場率14%（平年52%）

：低い（-）

発生程度の高いほ場を認めた（+）

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 本病が発生しやすい葉裏をよく観察し、早期発見と初期防除に努める。

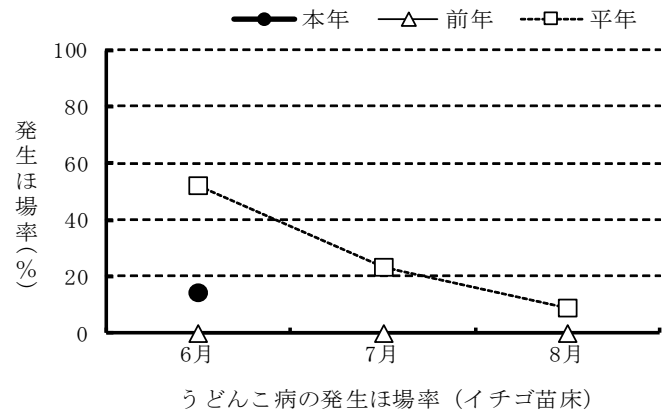
(イ) 雨よけ育苗施設では発生が多くなる傾向にある。

(ウ) 発病葉や古葉は除去し、ほ場外へ持ち出して処分する。

(エ) ランナー切り離し前までの防除を徹底し、葉裏や下位葉に薬剤が十分かかるよう散布する。

(オ) 薬剤によっては感受性が低下している可能性があるため、散布後は防除効果を確認する。

(カ) 同一系統薬剤の連用を避け、系統や作用性の異なる薬剤のローテーション散布を行う。



(2) 炭疽病

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土

(イ) 発生量 並

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：やや少

発生ほ場率0%（平年3%）

：やや低い（-）

5月潜在感染確認ほ場率88%（平年40%）

5月潜在感染確認株率 17%（平年7%）

：高い（+）

（5月下旬採集。平年は過去10年間の平均値。）

(イ) 気象予報

降水量：平年並か多い（+）

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 雨よけ、排水対策及び防風対策を徹底する。灌水はできるだけ水滴が小さくなる灌水チューブ等を用い、適正な水管理に努める。

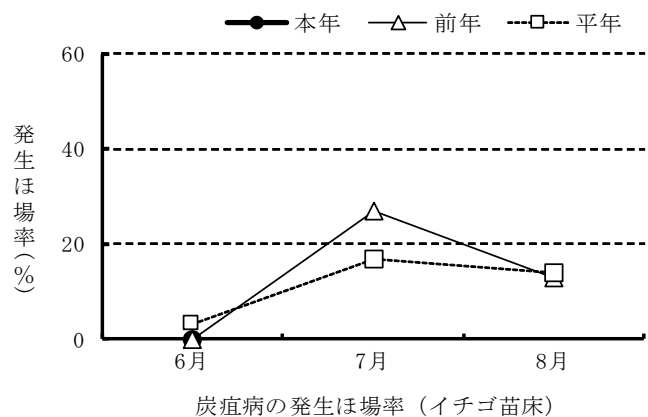
(イ) 古葉は潜在感染している場合が多いので、新葉展開後は降雨時を避けて摘葉する。

(ウ) 生育不良の親株や萎凋した苗は、早急に除去し、ほ場外で適切に処分する。

(エ) 薬剤による予防散布は10～14日間隔で行い、株元、ランナー、葉裏などに十分量を散布する。発生が認められた場合は散布間隔を短縮する。

(オ) 地床育苗では、ビニールマルチ等で降雨等による土のはね返りを防止する。

(カ) 育苗ほ場周辺や育苗ベンチ下の除草を徹底する。



(3) ハダニ類

ア 予報内容

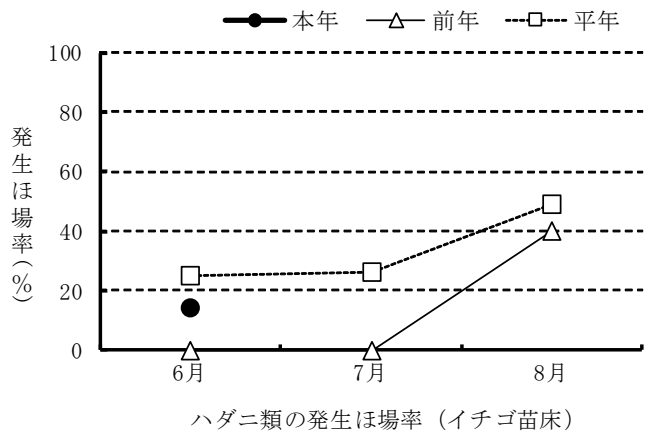
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 発生量 やや少

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：やや少
発生ほ場率14%（平年25%）
：やや低い

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 下葉や寄生葉は摘葉し、ほ場外に持ち出し処分する。
- (イ) 薬剤の防除効果をもとめるため、下葉かきを行ってから葉裏にかかるよう散布する。
- (ウ) 薬剤によっては感受性が低下しているため、散布後は防除効果を確認する。
- (エ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布を行う。



2. サトイモ

(1) 疫病 (平成30年度からの調査)

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県内全域
- (イ) 発生量 並

イ 予報の根拠

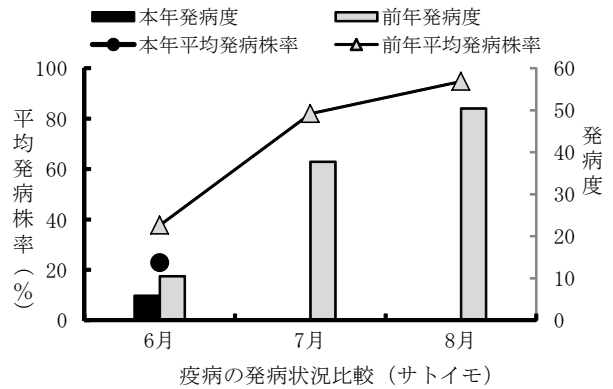
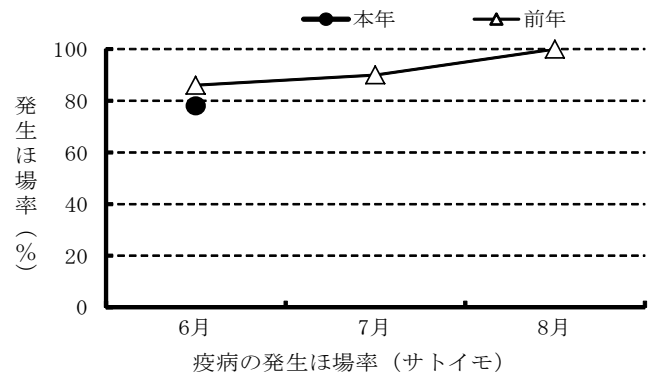
- (ア) 調査結果 発生量：やや少
発生ほ場率78%
平均発病株率26.0%，平均発病度5.8
：少発生

(イ) 気象予報

降水量：平年並みか多い (+)

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 前年発生したほ場では発病する可能性が高いので、注意する。
- (イ) 降雨が続くと急激に発生が拡大するので、薬剤散布は予防を主体とする。
- (ウ) 未発生ほ場では発生の有無をこまめに観察し、発生を確認したら直ちにアミスター20フロアブルを7日間隔で2回散布する。
- (エ) 高温時の薬剤散布や、雨の合間においても散布後の急激な日照は、薬害の発生を助長する恐れがあるので、ジーファイン水和剤等を使用する場合、薬剤防除時の気象動向に注意する。
- (オ) 薬剤散布後、葉が長時間濡れた状態に置かれると薬害の発生を助長する恐れがあるので、散布は葉が速やかに乾く時間帯を選ぶ。
- (カ) 発病茎葉は発生源となるので、早めに摘み取ってほ場外へ持ち出し、適正に処分する。
- (キ) 排水の悪いほ場では多発しやすいので、長時間の滞水を避けるよう、対策を十分に行う。



3. サツマイモ、野菜・花き共通

(1) ハスモンヨトウ

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土

(イ) 対象作物 サツマイモ、サトイモ、根深ネギ、イチゴ、キク等

(ウ) 発生量 やや多

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：やや多

フェロモントラップ誘殺数：やや多(+)

6月上旬にやや大きな誘殺ピークが認められた

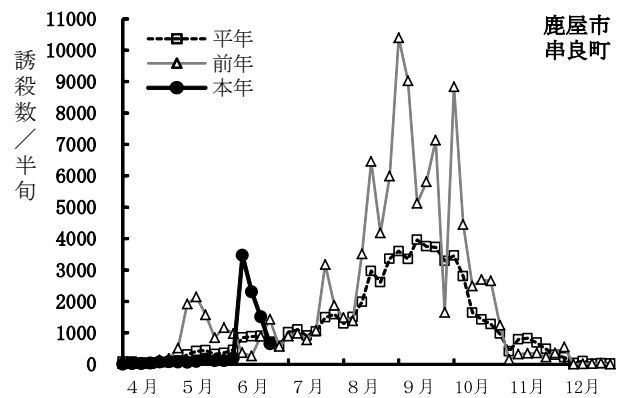
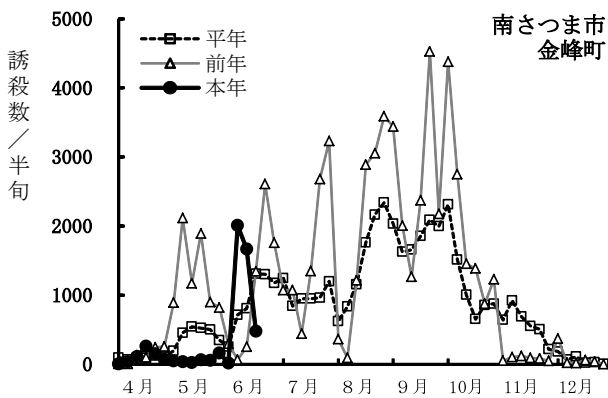
ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 発生状況は、作物や各地域で異なるため、ほ場を見回り、幼虫の発生状況を確認する。

(イ) 若齢幼虫は集団で表皮だけを残して食害（白変葉）するので、発生を目安にする。

(ウ) 卵塊や若齢幼虫が寄生している葉は、見つけ次第摘み取り処分する。

(エ) 中・老齢幼虫になると薬剤が効きにくいので、防除は若齢幼虫の多い時期に行う。



フェロモントラップによるハスモンヨトウの誘殺状況（6月25日現在）

防除に関する今月の留意事項

1. オクラ輪紋病

近年発生が多く、多発ほ場では果実にも発病するため、商品性を損なう。葉では初め、周縁部が明瞭な暗褐色円形病斑を生じ、のち黒褐色同心輪紋となり、中心部は退色して小黑点を生じる。果実では初め、暗褐色水浸状病斑のち拡大して果実面をとりまく。若い果実が侵されやすい。

病斑からの孢子飛散で伝染するため、伝染源をほ場に残さない。

(1) 降雨が続くと多発するので、初期病斑を認めたら早めに摘葉し、ほ場外に持ち出したうえで適正に処分する。

Ⅲ. 花き（キク）

(1) ハダニ類

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土（施設）

(イ) 発生量 やや多

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：やや多

発生ほ場率40%（平年30%）

：やや高い（+）

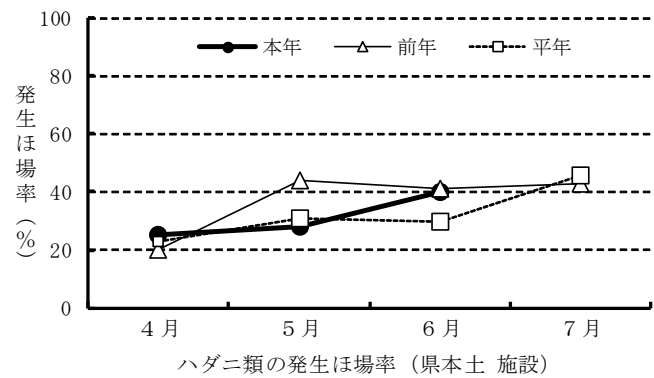
ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 出入口や前作での発生場所近く等でスポット状に発生するケースが多いので、ほ場全体をよく見回り、早期発見と初期防除に努める。

(イ) ほ場内と周辺の雑草や収穫後の残さ等は早めに除去し、適正に処分する。

(ウ) 薬剤は葉裏までよくかかるように散布する。

(エ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布を行う。



(2) アザミウマ類

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土（施設）

(イ) 発生量 やや多

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：やや多

発生ほ場率40%（平年27%）

：やや高い（+）

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) アザミウマ類はキクえそ病(TSWV)、キク茎えそ病(CSNV)を媒介する。

(イ) 母株や苗の導入に際しては、アザミウマ類の寄生やウイルス感染に細心の注意を払う。

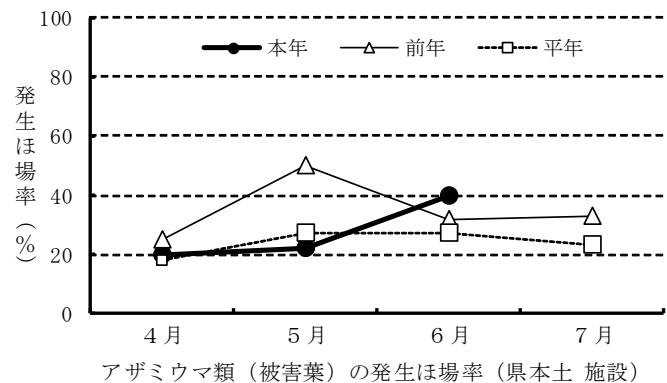
(ウ) ハウスの開口部には目合い0.6mm以下の防虫ネットを張る。

(エ) ハウスの開口部等に青色粘着トラップを設置し、早期発見と初期防除に努める。

(オ) 除草等の環境整備を行うとともに、母株の防除を徹底する。

(カ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布を行う。

(キ) 栽培終了後は、速やかに残渣を処分する。



IV. 果 樹

1. カンキツ

(1) かいよう病

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県内全域

(イ) 発生量

県本土・熊毛地域(果実) 並

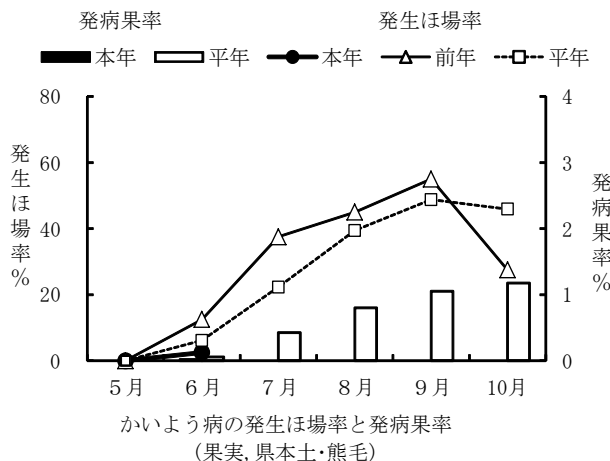
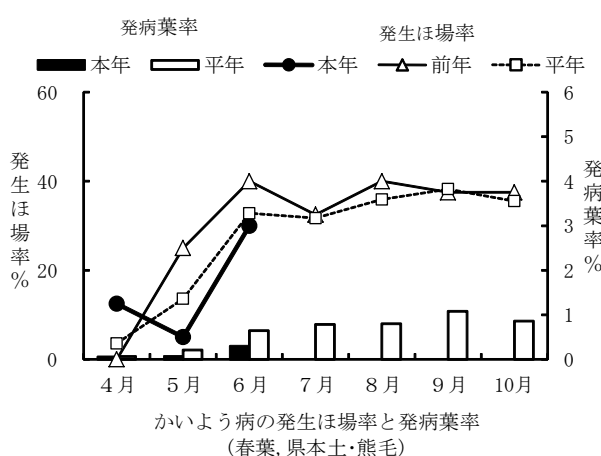
奄美地域(果実) 並

イ 予報の根拠

<県本土・熊毛地域>

(ア) 調査結果

| | 春葉 | 果実 |
|-------|--------------------------|--------------------------|
| 発生量 | 並 | やや少 |
| 発生ほ場率 | 33% (平年 33%) : 並 | 3% (平年 6%) : やや低い (-) |
| 発病率 | 0.3% (平年0.6%) : やや低い (-) | 0.0% (平年0.1%) : やや低い (-) |



(イ) 気象予報

降水量: 平年並みか多い (+)

<奄美地域>

(ア) 調査結果

| | 春葉 | 果実 |
|-------|----------------------|-----------------|
| 発生量 | やや少 | 並 |
| 発生ほ場率 | 0% (平年 23%) : 低い (-) | 0% (平年 0%) : 並 |
| 発病率 | 0% (平年0.3%) : 低い (-) | 0% (平年0.0%) : 並 |

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) ミカンハモグリガの食入痕から感染しやすいので、ミカンハモグリガの防除を徹底する。

(イ) 台風の風傷害により発生が多くなることが予想されるので、台風前の防除を徹底する。

(2) ミカンハダニ

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県内全域

(イ) 発生量

県本土・熊毛地域 並

奄美地域 並

イ 予報の根拠

< 県本土・熊本地域 >

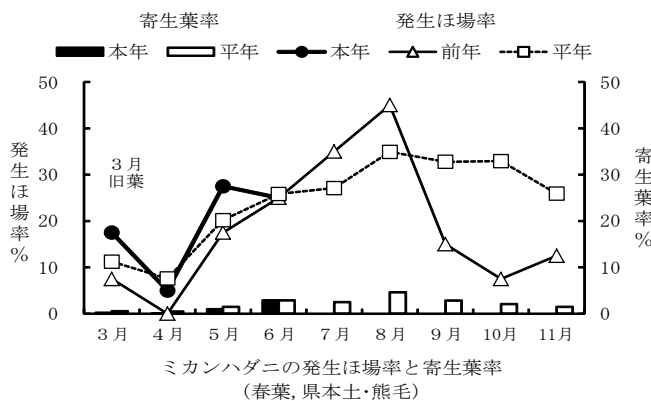
(ア) 調査結果(春葉) 発生量：並
 発生ほ場率 25% (平年 26%)：並
 寄生葉率 2.9% (平年 2.9%)：並

< 奄美地域 >

(ア) 調査結果(春葉) 発生量：並
 発生ほ場率 0% (平年 1%)：並
 寄生葉率 0% (平年 0.0%)：並

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 1葉当たり雌成虫数0.5～1.0頭(寄生葉率で30～40%)を目安に防除する。
 (イ) マシン油の散布は、極早生温州では6月上旬まで、早生・普通温州では7月上旬まで、ポンカン及びタンカン等の中晩柑類では7月下旬までとする。



2. ナシ

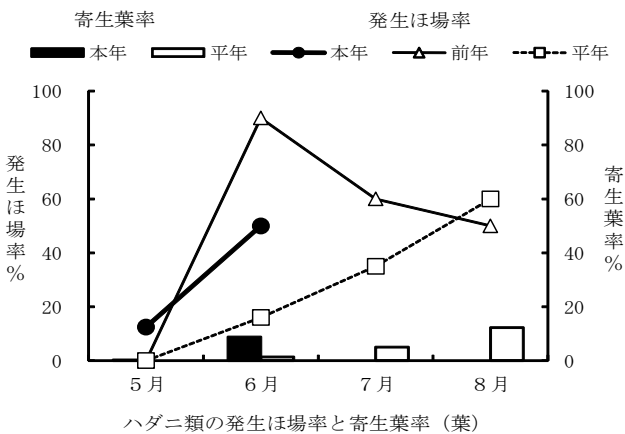
(1) ハダニ類

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土
 (イ) 発生量 やや多

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果(葉) 発生量：やや多
 発生ほ場率 50% (平年 16%)
 : やや高い (+)
 寄生葉率 8.8% (平年 1.4%)
 : 高い (+)



ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 薬剤による防除は発生初期に行い、葉裏や徒長枝にもかかるよう十分量散布する。
 (イ) 抵抗性の発達を防ぐために、同一薬剤、同一系統の薬剤の使用は年1回とする。

3. ナシ・カンキツ

(1) 果樹カメムシ類 (ツヤアオカメムシ, チャバネアオカメムシ)

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土
 (イ) 発生量 ツヤアオカメムシ やや少
 チャバネアオカメムシ 少

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果

| 調査地点 | 予察灯の誘殺虫数, 6月第1～4半旬の合計 (単位: 頭) | | | | | |
|-----------|-------------------------------|----------|------|------------|----------|-----|
| | ツヤアオカメムシ | | | チャバネアオカメムシ | | |
| | 本年 (R1) | 前年 (H30) | 平年 | 本年 (R1) | 前年 (H30) | 平年 |
| 南さつま市金峰町 | 76 | 2,064 | 512 | 3 | 69 | 130 |
| 〃 加世田唐仁原 | 123 | 582 | 248 | 6 | 25 | 38 |
| いちき串木野市湊町 | 3 | 633 | 142 | 1 | 177 | 52 |
| 出水市美原町 | 115 | 2,978 | 1010 | 4 | 4,037 | 582 |
| 鹿屋市串良町 | 34 | 449 | 112 | 0 | 4 | 15 |
| 誘殺虫数 | やや少 (-) | | | 少 (-) | | |

注1) 平年は、南さつま市金峰町、鹿屋市串良町が過去10年間、他は8か年の平均。
 2) 予察灯の光源は、南さつま市金峰町は水銀灯100W、鹿屋市串良町は捕虫灯20W、他は捕虫灯40W。

寄主植物（スギ・ヒノキ）の球果量指数

| 調査地域 | ヒノキ | | | スギ | | |
|----------|------------|-------------|------|------------|-------------|------|
| | 本年 (R1) | 前年 (H30) | 平年 | 本年 (R1) | 前年 (H30) | 平年 |
| 南薩 | 52.4 | 37.8 | 40.1 | 42.9 | 31.9 | 32.8 |
| 北薩（含む伊佐） | 61.2 | 47.6 | 44.3 | 40.6 | 46.4 | 33.5 |
| 始良 | 61.9 | 30.6 | 41.1 | 34.9 | 40.8 | 30.6 |
| 大隅 | 31.9 | 57.1 | 35.3 | 48.2 | 48.2 | 29.6 |

- 注1) 球果量は目視による達観調査（ヒノキ64地点，スギ62地点），評価は7段階（極多，多，やや多，中，やや少，少，極少）
 2) 球果量指数は愛媛県（2018）による。球果量が多いと指数が高く，少ないと指数が低くなる
 3) 球果量指数： $((\text{極多地点数} \times 7) + (\text{多地点数} \times 6) + (\text{やや多地点数} \times 5) + (\text{中地点数} \times 4) + (\text{やや少地点数} \times 3) + (\text{少地点数} \times 2) + (\text{極少地点数} \times 1)) / (\text{総地点数} \times 7) \times 100$
 4) 平年は，2009～2018年の10年間の平均。

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 果樹カメムシ類の飛来は地域間差，ほ場間差があるため，こまめに園内外をよく見回り，飛来を認めたら直ちに防除する。
 (イ) 寄主植物の着果量が多い地域では，今後新生虫の発生が増加する可能性があるので注意する。

防除に関する今月の留意事項

1. カンキツ

(1) 黒点病

- ア 本病は落花直後～梅雨期に感染が多くなる。
 イ 薬剤散布間隔は，散布からの累積降水量250～300mmを目安とする。
 ウ 伝染源となる枯れ枝はこまめにせん除し，せん定くずは園外に持ち出して処分する。

(2) ゴマダラカミキリ

- ア 成虫は5月下旬から発生し，6月上旬～中旬が羽化最盛期になる。
 イ 産卵は6月中旬頃から始まり7月上旬が盛期で，8月まで続く。
 ウ 成虫は朝夕の活動がにぶい時間帯に捕殺し，卵・幼虫は圧殺・刺殺を行う。
 エ 樹冠下の除草は，産卵防止に効果的である。
 オ 幼木の主幹地際部を物理的に遮断（ストックカバー法）すると，成虫の産卵を防止できる。

ゴマダラカミキリの発育ステージ別防除方法

| 時期 | 5月 | | | 6月 | | | 7月 | | | 8月 | | |
|--------|----|---|---|------------------|---|---|----------------|---|---|-----------|---|---|
| | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 |
| 生態 | | | | ← 成虫発生期 → | | | ← 産卵期 → | | | ← 幼虫食入期 → | | |
| 物理的防除法 | | | | ← 成虫の捕殺 → | | | ← 卵の圧殺・幼虫の捕殺 → | | | | | |
| 生物的防除法 | | | | ↓ バイオリサ・カミキリ施用 ↓ | | | | | | | | |
| 薬剤防除法 | | | | ↓ 殺虫剤散布 ↓ | | | | | | | | |

注) 県本土の発育ステージを示す。

V. 茶 樹

(1) 炭疽病

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
(イ) 発 生 量 やや少

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：少

発生ほ場率22% (平年43%)：低い (-)

1 m²当たり病葉数2.9枚 (平年4.4枚)：並
定点無防除園での病葉数 (6月中旬)

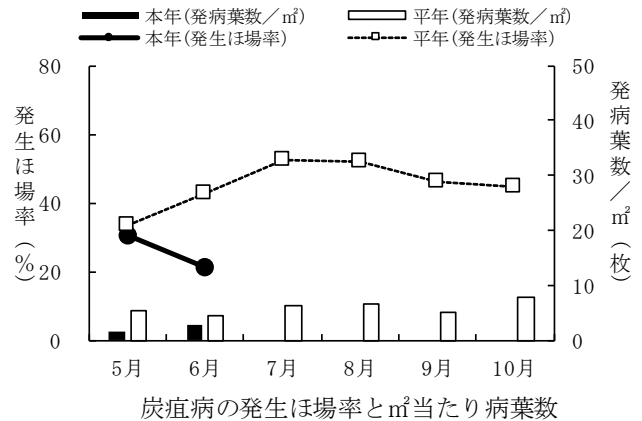
3枚/m² (平年33.3枚)：少 (-)

(イ) 気象予報

降水量：平年並みか多い (+)

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 摘採残葉での発生に注意し、発病葉の多いほ場では三番茶萌芽～1葉期に防除する。
(イ) 三番茶芽の生育期に降雨が続く場合は感染・発病に十分注意する。
(ウ) 「やぶきた」等の本病に弱い品種は特に注意する。
(エ) 多発状態が続く茶園では整・剪枝 (深刈り等) により伝染源となる病葉を除去する。
(オ) 更新園では裾部に残った病葉が伝染源となり、梅雨末期に再生芽へ感染するため、1～3葉期に予防効果のある薬剤で防除する。



(2) 輪斑病

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
(イ) 発 生 量 やや少

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：やや少

発生ほ場率5% (平年16%)

：やや低い (-)

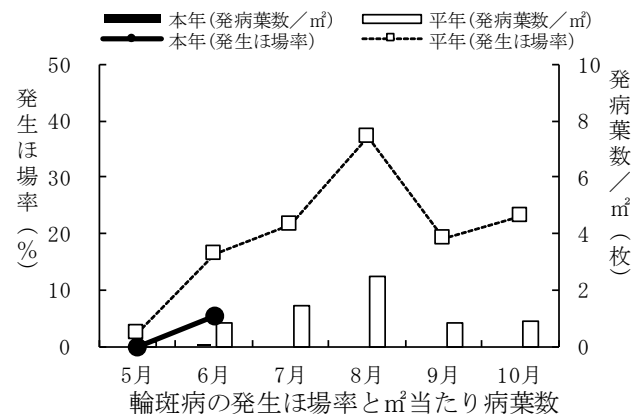
1 m²当たり病葉数0.1枚 (平年0.8枚)

：やや少 (-)

定点無防除園での病葉数 (6月中旬) 4枚/m² (平年3.1枚)：並

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 防除薬剤に保護殺菌剤を使用する場合は摘採直後に、浸透移行性の薬剤を使用する場合は3日以内に散布する。
(イ) 三番茶摘採直後に防除できなかった場合は、摘採7日後までに1cmほど整枝し、その直後に防除を行う。ただし、降雨時の摘採や整枝はできるだけ行わない。
(ウ) QoI剤耐性菌の発生が確認されているほ場では、本系統薬剤の使用を避け、耐性菌未発生のは場でも、QoI剤の使用は年1回とする。
(エ) 「やぶきた」などの輪斑病に弱い品種の更新園においても、再生芽の整枝直後に薬剤防除を行う。



(3) チャノコカクモンハマキ, チャハマキ

ア 予報内容

| | |
|----------|--------------------------------|
| (ア) 発生地域 | 県本土 |
| (イ) 発生量 | チャノコカクモンハマキ 並 チャハマキ 並 |
| (ウ) 発生時期 | チャノコカクモンハマキ やや遅い チャハマキ やや早い |

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果

| | チャノコカクモンハマキ | チャハマキ |
|-------------------------|---------------------------------|--------------------------|
| 【巡回調査】 | | |
| 発生量 | 並 | やや少 |
| 発生ほ場率 | 5% (平年3%) : やや高い(+) | 0% (平年2%) : やや低い(-) |
| 虫数 (1㎡当たり) | 0.2頭 (平年0.1頭) : 並 発生程度は低い(-) | 0頭 (平年0.02頭) : やや少(-) |
| 【定点調査 フェロモントラップ】 | | |
| 越冬世代誘殺数 | 415頭 (平年597.0頭) : 並 | 1,258頭 (平年680.5頭) : 多(+) |
| 越冬世代の50%誘殺日 | 4/22 (平年4/19) : やや遅い | 4/8 (平年4/12) : やや早い |

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 発生量・発生時期は地域間差があるので、フェロモントラップ等で発生状況を把握する。
- (イ) 薬剤防除を行う場合、防除適期は発蛾最盛日の7~10日後(ふ化~2齢期)である。

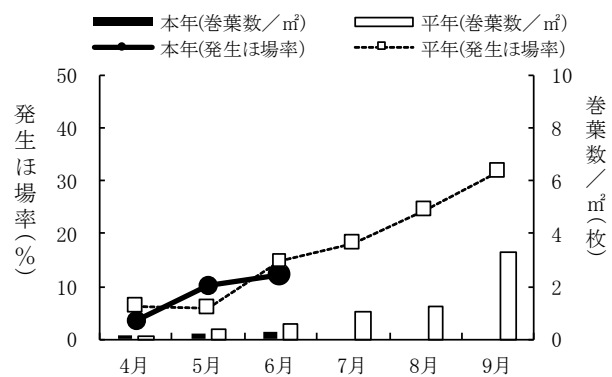
(4) チャノホソガ

ア 予報内容

| | |
|----------|-----|
| (ア) 発生地域 | 県本土 |
| (イ) 発生量 | 並 |
| (ウ) 発生時期 | 並 |

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量 : 並
 発生ほ場率12% (平年15%) : 並
 1㎡当たり巻葉数0.3枚 (平年0.6枚)
 : やや少 (-)



チャノホソガの発生ほ場率と㎡当たり巻葉数

定点調査フェロモントラップでの第一世代の誘殺数 632頭 (平年2904.2頭) : 少 (-)

定点調査フェロモントラップでの第一世代成虫の50%誘殺日 5月24日 (平年5月24日) : 並

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 防除は三番茶萌芽~1葉期に行うが、摘採までの期間が短いので、薬剤の選定と使用時期に留意する。
- (イ) 更新園では再生芽の開葉期に卵や潜葉期幼虫の発生状況を確認して、薬剤防除する。
- (ウ) 地域によっては、IGR系やジアミド系薬剤の防除効果の低下事例もあることから、薬剤の選定にあたっては地域の管理暦に準ずる。

(5) チャノミドリヒメヨコバイ, チャノキイロアザミウマ

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 発生量 チャノミドリヒメヨコバイ やや多
チャノキイロアザミウマ 少

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 (6月中旬)

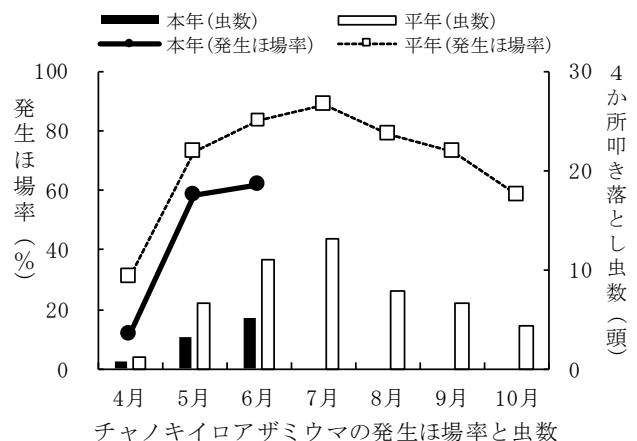
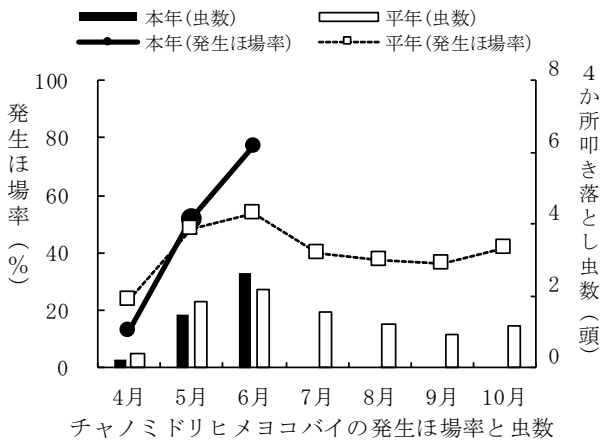
| | チャノミドリヒメヨコバイ | チャノキイロアザミウマ |
|---------------------|-------------------------|--------------------------|
| 【巡回調査】 | | |
| 発生量 | 多 | 少 |
| 発生ほ場率 | 77% (平年54%) : 高い (+) | 62% (平年83%) : 低い (-) |
| 虫数(4か所叩き落とし) | 2.6頭 (平年2.2頭) : 並 | 5.1頭 (平年11.0頭) : やや少 (-) |
| 【定点調査 無防除園】 | | |
| 虫数(50回すくい取り・たたき落とし) | 11頭 (平年35.1頭) : やや少 (-) | 7頭 (平年13.3頭) : やや少 (-) |

(イ) 気象予報

降水量 : 平年並みか多い (-)

ウ 防除上注意すべき事項

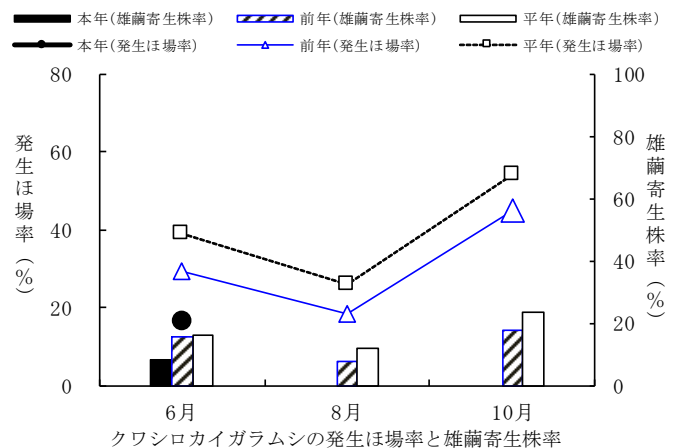
- (ア) 新芽を加害するので, 三番茶萌芽期に防除する。三番茶摘採後も摘採残葉や遅れ芽を加害し, 秋芽生育期の発生源となるので, 摘採後に発生が多いほ場では防除する。
- (イ) 更新園では残葉が少なく, 再生芽に被害が集中するため, 萌芽から生育初期に残効の長い薬剤で防除する。



(6) クワシロカイガラムシ

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
 - (イ) 発生量 やや少
 - (ウ) 発生時期 並
- イ 予報の根拠
- (ア) 調査結果 発生量 : やや少
発生ほ場率17% (平年39%)
: 低い (-)
雄繭の寄生株率8.5% (平年16.1%)
: やや低い (-)
発生程度の高いほ場を認めた (+)



(イ) 発生時期

定点(茶業部)における第一世代ふ化最盛日(5月12日)翌日からの有効積算温度は6月20日現在532.4日度で、今後の平均気温が平年並みに推移した場合、第二世代ふ化最盛日は7月16日頃(前年7月9日、前々年7月19日)と予測される。

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 定点ほ場でのふ化最盛日は平年並みと予測されているが、地域によって差があるので、ふ化状況を調査し、ふ化最盛日を把握する。

(イ) 防除は、ふ化最盛日から5日以内に薬剤が枝や株元に十分かかるように散布する。

(ウ) 第二世代のふ化最盛期が三番茶と重なり、防除適期を逃した場合は、雄繭発生期に防除を行うことで第三世代の発生量を抑制できる。その場合、雄繭発生時期の防除適期は、第二世代ふ化最盛日から18~24日後(雄虫羽化開始±3日)である。

(エ) 更新園でのふ化最盛期の防除は高い効果が期待できる。

農薬の適正使用について

農薬は以下の点に注意して適正に使用しましょう。

1. 使用前にラベルや説明書をよく読む。

決められた対象作物・使用時期・回数・使用濃度等を守り、記載された用途、方法以外では使用しない。

2. 使用する農薬にあわせて、適切な防除衣、保護具(マスク・手袋など)を着用する。

3. 散布前には防除器具の整備・点検をする。

4. 体調がすぐれないときは散布作業を避ける。

5. 散布時には薬剤がほ場の外に飛散したり、流出したりしないよう十分注意する。

6. クロルピクリン剤は、住宅地および畜舎に隣接するほ場や、無風の時、土壌が乾燥しているときは使用しない。注入後は直ちに穴をふさぎポリエチレンフィルム等で10日以上被覆する。

7. ランネート剤は毒性が強いので、施設内や噴霧のこもりやすい場所では使用しない。

8. 使用期限の切れた農薬、不要になった農薬および使用済みの空容器は適正に処分する。

9. 農薬は食品と区別し、鍵をかけて保管する。

10. 農薬の散布記録をつけておく。

「予報の根拠」の記載方法

○調査結果の発生量は、前月の巡回及び定点調査による。

○野菜類共通病害虫の発生量は、各作物での発生量やトラップ調査結果等を総合的に基づいた総合評価。

○発生ほ場率と調査場所を記載しない発生数・発生率は、巡回調査の結果。

○果樹と茶樹の定点防除園又は無防除園は、果樹部と茶業部での調査結果。

○調査結果や気象予報等の末尾の(+)、(-)は、発生量の増加、減少要因を示す。

○気象予報は、向こう1か月の長期予報。

○平年値は原則として過去10年間の平年を用い、本年調査値の後に(平年○○)で表記する。ただし、過去3年間の平均値を用いた場合は(過去3年○○)と表記する。